

最終報告会に参加された皆様



塩崎学長より総括コメント

▶ 学と地域の協働が未来をつくる

今回の報告会に参加して学長として嬉しかったのは、大学に様々な人が集まって意見交換をしていただいたことです。奈良先端大は研究分野からも、学内に入る敷居が高いというイメージだったと思いますが、この意見交換会がきっかけとなって大学に来られ、大学を活かすようなまちづくりを提案していただきました。

日本では人口あたりの博士数が少なく、これがイノベーションが進まない理由とも言われています。大学では、少子化に伴う学生数の減少への対策を検討しているところです。2030年までに博士号取得者を3倍に増やすという指針（文科省）がある中、奈良先端大も院生数を増やしていく予定です。そのような中で、地域の力は重要だと考えます。

今年度からけいはんな学研都市第5期ステージプランが始まり、次のステージを目指した動きが始まっている中、高山地区はけいはんな学研都市の他のエリアと違い、これからの可能性を秘めています。これからのこのエリアが未来に向けて進むためにも、今回のように大学や市、地域というまちづくりの主要構成メンバーが集まって、まちづくりについて議論するということは非常に大切なことだと思います。

▶ けいはんなから全国へ

けいはんな学研都市は、ポスト万博シティとして位置付けられ、科学技術のまちを目指しています。こういった取組が、これからの全国のモデルケースになってほしいと思います。今後も実際のまちづくりの中で、大学も地域の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っています。



最後に・・・

ワークショップやアンケートにご協力いただきまして誠にありがとうございました。今後も、生駒市・奈良先端大・地域の皆さまと連携しながら、今回の報告会で発表していただいた構想提案の内容を活かし、より良いまちづくりの実現に向けた取り組みと検討を進めて参ります。

構想案の詳細につきましては、生駒市ホームページに掲載しておりますので、以下のURL若しくは右記のQRコードよりご参照ください。

<https://www.city.ikoma.lg.jp/0000038008.html>



お問い合わせ：生駒市 学研推進課 電話：0743-74-1111（内線3870） 担当：西田
Mail：gakken@city.ikoma.lg.jp

この通信は、学研高山地区及び周辺地域の価値向上に向けた取り組みについての内容をお知らせするものです。

学研高山地区及び周辺地域 魅力あっぷ通信

R8.6 Vol.6

発行：生駒市学研推進課

学研高山地区及び周辺地域の価値向上事業拠点構想提案の報告会を行いました。

本報告会開催までの経緯

これまでの意見交換会では、学研高山地区第2工区地権者・地域自治会、高山地区事業者・農業関係者・地域活動団体、奈良先端大（学生、留学生、職員）といった高山に関わる総勢43名の方にご参加いただき、意見交換を進めて参りました。その結果をとりまとめて構想案を作成し、これまでの意見交換会にご参加いただいた皆様と、生駒市、奈良先端大関係者との共有を目的として報告会を開催しました。

これまでの流れ

R6年度

- ・意見交換会
- ・2回開催

R7年度

- ・市民アンケート実施
- ・意見交換会3回開催

R8年度

- ・構想提案
- ・報告会

報告会の開催概要

【日程】	令和8年5月11日(月)
【開催場所】	奈良先端科学技術大学院大学
【アドバイザー】	奈良県立大学 教授 佐藤 由美 氏
【オブザーバ】	奈良先端科学技術大学院大学 学長 塩崎 一裕 氏、副学長 加藤 博一 氏 生駒市長 小紫 雅史 氏 副市長 領家 誠 氏
【参加者】	地域住民・地域事業者 9名 大学関係者（職員・教員） 13名
【事務局】	生駒市・奈良先端科学技術大学院大学

生駒市長よりあいさつ

令和6年度から5回にわたる意見交換会をされ、多くの参加者様からいただいた様々な意見をもとに議論を重ねられてきたと思います。そのため、集大成である今回の構想の提案を大変楽しみにしていました。学研高山地区第2工区は、けいはんな学研都市の真ん中に位置し、生駒市の未来においても非常に重要な位置づけです。現在、学研高山地区第2工区では地権者の皆さまをはじめとした様々な方との意見交換によって具体的なまちづくりを進めているところです。

意見交換会にご参加くださった皆さまにおかれましては、第2工区だけでなく周辺地域への効果や、高山地区の歴史・伝統、農業などの地域特性を考えたうえで、この地域の魅力を向上させるにはどうすればいいか議論していただいたと思います。

今回発表していただく構想提案のアイデアや皆さまの想いは、できる限り第2工区のまちづくりのデザインの中に取り入れていきたいと考えています。



1班：広域的な地域交流の場となる拠点構想提案

『未来へのゲートウェイ』

生駒のポテンシャルを最大限に引き出す新たな拠点として「道の駅」が提案されました。高山地区の伝統と奈良先端大の技術に加えて、強固な防災機能を備えた特徴ある次世代交流拠点を目指します。

①ここでしか味わえない食と体験

地域特産品や伝統工芸品、大学のバイオ技術を活かした共同開発による品種改良農産物

②集客を最大限にする仕掛け

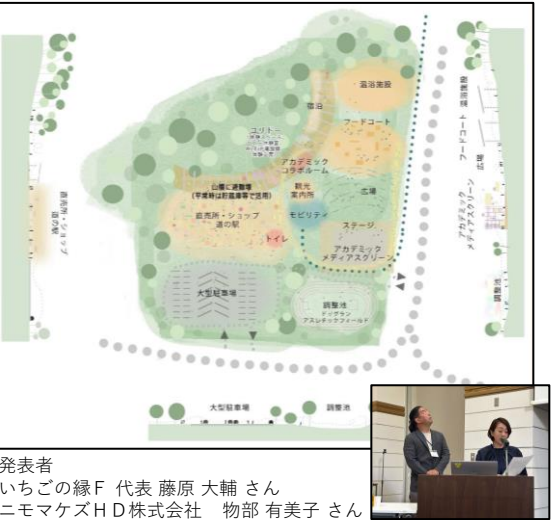
茶釜をモチーフとしたモニュメント「おちやせん」を軸に、合格祈願などの話題創出

③知的好奇心の刺激

先端大の研究成果や子どもの作品等の展示や、サイエンス交流の場を提供等
先端大や医工連携の技術を活用した健康増進施設等

④防災

駐車場のヘリポート的活用、背面傾斜地の防災倉庫、広場防災ベンチ等



アドバイザー コメント（佐藤先生）

アンケート結果が多く反映されている構想であり、市民の方に求められている機能が集まっていました。高山のものや大学の技術を活用したこの場所ならではの価値となると思いました。

オブザーバーコメント(加藤副学長)

地域の特徴と先端大の強みを生かしている提案でした。温泉等も先端技術を組み合わせると唯一のものになると思います。次世代モビリティ等で被災地支援等ができるのではないかと考えます。

2班：周辺地域の暮らしの向上拠点となる拠点構想提案

『食・健康・文化・学びの交流拠点』-生活の質が高まる“たけまるタウン”-

南北・東西の道路が交差する地点であり、第2工区の中心的な地域になると想定し、「商業利便施設、緑・公園、交流スペース、学びの場」が集まる複合的な拠点を目指します。

①商業利便施設

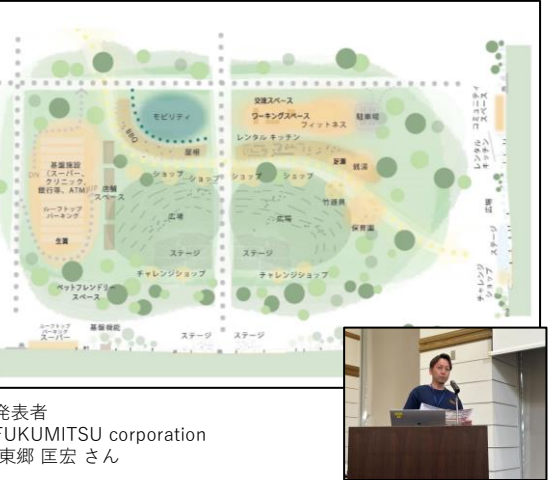
スーパー、クリニック、海外食材が購入できる店舗や飲食店。お店に足を運ぶことができる移動手段（自動運転バス、レンタルサイクル等）

②緑、公園

ステージを設置し、イベントやフェスなどで地域外からも集客できる仕掛け。屋根付きバーベキュー施設や、奈良先端大との連携施設等

③交流スペース、学びの場

大学×市民の交流の場となるような、レンタルキッチンやチャレンジショップ。地域の子もたちに留学生が海外文化を教えるような学びの場（フィットネスや銭湯）



アドバイザー コメント（佐藤先生）

利用者を具体的に想定した構想提案でした。アンケート結果で子どもの遊び場の需要が高かったことや、高山周辺は緑は多いが遊ぶ場が少ない現状を踏まえ幅広い来訪者をターゲットにしていました。

オブザーバー コメント（小紫市長）

基盤施設にロボット調理・無人化店舗など未来技術を導入しつつ、緑の遊びの空間を確保する点が魅力的でした。利便性向上や交流促進、子どもの遊び場が少ないという課題の解決につながる提案でした。

3班：大学と地域の連携・協力拠点構想提案

地域と大学の課題と資源が『みつかる、つながる暮らしのまちらボ』

大学と歴史伝統ある高山との連携のあり方を検討し、大学・地域住民・企業が連携して地域課題等を共有し、大学の研究シーズで解決し、その成果の社会実装までを一貫して支援する拠点を目指します。

①地域課題×大学連携

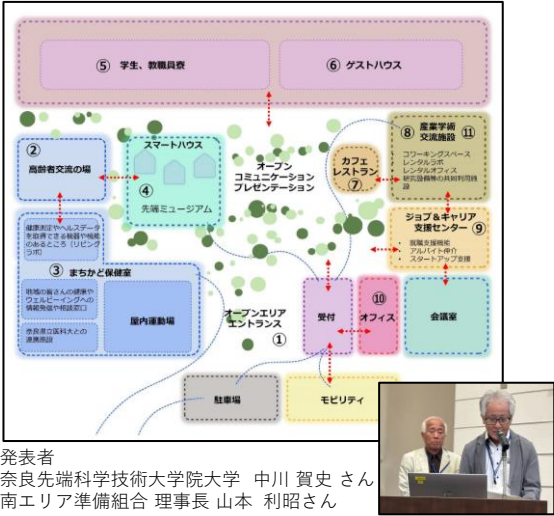
「高齢者交流の場」「まちかど保健室」「産学連携結果発表用スマートハウス先端ミュージアム」等
医工連携の実証拠点となる場

②周辺地域との共同利用

先端大留学生による語学や料理等を通じた交流の場
大学と地域の交流ができる寮などの施設
先端設備の共同利用、大学関係者等の宿泊施設等

③産学連携・起業就業支援

地域産業の維持発展やスタートアップ創出に繋げる就職・起業支援、レンタルラボ、オフィスの整備等といったイノベーション・commons等



アドバイザー コメント（佐藤先生）

地域課題に対して大学は何ができるかという視点の提案でした。大学だけでなく、地域側からのアプローチもありました。研究成果に繋がったり、実現性を高めらるような工夫ある構想提案だと感じました。

オブザーバー コメント（塩崎学長）

大学も医工連携等で地域貢献したいと考えています。地域産業での先端技術の実装や、新たな発見に繋がることもあります。産業、地域、大学が交流することによって、相互発展が期待できると思いました。

4班：自然・歴史文化との共生拠点構想提案

みんなで体験！高山のあれこれみんなで活用！高山地区の資産

この地域に人を呼び込み、関係人口を増やすことで移住者を増やすための仕組みが提案されました。この仕組みを達成するため、高山地域の自然や文化資源の活用を目指します。

①体験(人を呼び込む)

竹林園や八幡宮等の文化財、農地・竹林を活用した観光農園や工芸・野点等体験

②滞在(農のある暮らしを体験)

カフェやレストラン、クラブハウス、コテージやグランピング施設、週末農業などを楽しめるクラインガルテンなど

③より深い滞在と体験

地域交流施設や文化施設をつなぐ周遊モビリティ拠点。本格的な農業体験（就農相談窓口や農業サポート等）

④移住・仕事

お試し移住制度（移住後ギャップ予防）、コーディネーター配置、空き家斡旋、地域就労支援、高山農産物のブランド化

アドバイザー コメント（佐藤先生）

体験・活用というキャッチコピーが良く、定住に繋げる、空き家活用等、地域全体の活性化や生業づくりまで工夫していました。第2工区ではこうした想いを活かせるまちづくりを進めてほしいと感じます。

オブザーバー コメント（領家副市長）

クラインガルテンを中心にファーマーズスクールを展開し、新規就農、宿泊等により周辺への波及効果が期待できる。滞在を鍵にすると活用方法も広がります。新ビジネスや地域活性につながる構想提案でした。

